

府立鴨沂高等学校 厨房付食堂の行方



新校舎改築完成後も、
出来たて、作り手の顔の見える食空間を求めて。

2018年2月3日

はじめに。

府立鴨沂高校。

現在、2013年より始まった校舎改築は、当初完成予定から工期延長を経て、2018年夏にようやく工事を完了し、現在の移転先である仮校舎（旧成安女学校、産業大付属校舎跡）から、本校舎（寺町荒神口）に、学生たちが帰ってきます。

言わずもがな明治期より、日本初の公立女学校を前身とする鴨沂高ですが、戦後の男女共学を経て現在に至る歴史は長く、様々な歴史文化や特色を持つ学校です。

鴨沂高校には全日制及び夜間定時制が存在しますが、惜しまれつつも突然の新聞発表と共に募集停止の上、2018年度の卒業生をもって、戦後から続いた夜間定時制の歴史は終わりを告げます。

さて、この定時制の存在をもって、長い歴史を共に歩んだ学生食堂の存在もあります。定時制の学生への給食の提供と共に、全日制学生や職員らの集う、厨房付食堂の存在です。



鴨沂高の学生食堂の歴史は長く、戦後間もなく、定時制へのミルク配給を発端として、まずは女学校時代から移行された校舎地下、階段室の段裏にて、全日制も定時制も集う、簡単な麺類の提供が行われたそうです。当時の薄暗く不衛生な環境には全日制と定時制双方の学生や保護者らから度々議論が起こり、京都府に対する陳情などを経て、昭和43年ようやく、長年の夢であった立派で清潔な厨房付食堂が地上に完成しました。

その後はより充実した定食メニューなどが求められ、昭和55年より、現在の食堂運営者である前川夫妻によって、出来たてで完全手作り、かつ豊富なメニューの食事が提供されるようになり、運営されて38年、歴代の卒業生はもちろん、在校生にも愛される、保護者にも安心を提供する食堂となり、現在にまで至ります。



このように長年の歴史とともに、大切に育まれ、そして守られ、進化を遂げた、歴代の鴨沂生にとってはもはや文化スペースでもあった厨房付学生食堂が、どうやら存続の危機なのでは？との噂が立ち始めたのは2013年の校舎改築計画に端を発する、新校舎の未来図を持って開かれた、学生向けワークショップでした。工事準備のための仮校舎にも、厨房付食堂はそのまま移行されたものの、肝心の新校舎の図面を見ても、「売店」「食堂」の表記はありますが、「厨房」の文字が見当たりません。

しかしながら当時の設計会社や教育委員会からは、「建物の設計と運営は別」と煙に巻かれたまま時は経ち、その後工事も当初計画よりも完成は延期を重ねました。



それから5年。いよいよ校舎完成を目前とする中も依然、学生食堂は不動の人気を誇り、受験希望者を対象とした説明会でも、学校の特色自慢として学生食堂がクローズアップされ続けます。

「食堂は果たしてあるのか」「ないのか」。食堂存続を求める保護者や学生に対し、学校側は「食堂は新校舎でもある」と断言される一方、水面下で進められているコンビニ化計画に、在校生や保護者は翻弄されるのです。一体、学校側はどのような方針を持って、新校舎の食堂では、学生らにどのような食事を提供する場としているのでしょうか。

食堂の存続の方向性が見出せない中、それぞれの話が異なる中、このまま結論を待つだけではいけないと、署名運動がスタートし、また、新校舎での食堂に関する図面などの情報開示請求を行いました。在校生も独自に署名運動を行い、全校生の8割が食堂存続に対する署名を行いました。一方、保護者有志や卒業生有志も、2018年1月時点で6000筆を大きく超える署名を集めました。

延長に続く延長の上にようやく開示された図面を紐解くと、火元として危ないとされるガス以前、学校側から代替えとして言われるようになった電磁調理も、厨房設備どころの話ではなく、簡単な調理を要する空間として、食品衛生上、最低限満たされるべき給排水の設備すらない空間であることがわかりました。その他、最低限必要とされる調理にかかるインフラ整備も然りです。これでは、言われる「安心安全」な食空間どころの話ではありません。

長年、厨房付の学生食堂を有した鴨沂にとって「食堂」とは。 「食堂」と言われて、 あなたはどのような空間を想像しますか？

「業務内容が教育の一環である学校給食全般に渡り、かつ全日制の昼間食堂と同一の調理場を使用することになるため、施設管理及び衛生管理上、全日制の昼間食堂の業務を行なっている業者に委託する必要がある、昼間食堂と夜間食堂を一体的かつ継続的に実施することによって、低価格で安定して提供することができ、契約の目的及び性質が競争入札に適しないため。」

これは、京都府における公表対象随意契約一覧に記載された、鴨沂高における学生食堂の、契約形態及び、現在の食堂運営者に託された事の理由です。

定時制の学生らはこの契約の元で手作りの給食を頂き、また全日制の学生らは同じくこの契約の元で昼間食堂として利用してきました。

2018年度。2019年3月をもって、定時制は最後の卒業生が卒業して、長年に渡る鴨沂高定時制は終わりを告げます。しかし、校舎完成後も定時制在校生は存在します。そして、あまりにも長きに渡り、同じく食堂の存在を共有してきた全日制の学生たちは、今後も脈々と、鴨沂の歴史や文化を引き継ぎます。

これほどまでに愛される食堂の存在を、その存続を望む声は、果たして届くのでしょうか。

今後の食堂に対する不満の声。

～みんなの声は、食堂ファンサイトでも公開中!!!

<https://ohki-maekawa-shokudo.jimdo.com>

鴨沂高校定時制の卒業生保護者で、4年間PTA役員として活動させていただきました。

今回の食堂の件を聞いて私が思ったのは「校長先生、又ですか?!」
うちの子が通っている時に、降って湧いたような定時制募集停止。

「え?!は?!何のこと?!そんなんあるわけないやん。私PTA会長やけど、そんな話コレっぽっちも聞かされてませんけど...?!」頭が真っ白になりました。「今通っている子はどうなんの?!定時制がなくなるなんて、意味わからへん」

そして今回の食堂がなくなる件。「え?なくなる?工事当初からそんな予定でした?!」

食堂がなくなるかも...の話も出てないぐらい心配もしてなかった。新校舎に食堂があつて当たり前だと思っていました。

どうして、定時制募集停止の件も食堂の件も期待を持たすような事を言っておいて裏切らはるんですか?!どんだけ私達の心を傷つけたら気が済むんですか?!どんだけ裏切るんですか?!PTAや生徒の事を考えてくれたはるんですか?募集停止の件も食堂の件も期待を持たすような事を言っておいて裏切らはるんですか?!PTAや生徒の事を考えてくれたはるんですか?

何の為の!PTA役員なのか。先生達とPTA役員の間には<信用・信頼>とかいう関係性はないのですか?!特に募集停止の時は<裏切られた>の思いで凄く凄く悲しかったです。

役員会の時、校長先生に泣いて訴えてしまいました。「何でそれとなくでも教えてもらえなかったんですか?!急に募集停止なんてあり得ない!ずっと前から出ていた話なんじゃないんですか?!」でも校長先生は「申し訳ない」としか...

確かに鴨沂高校の定時制の生徒はここ数年で減少しています。だからと言って定時制がなくなるなんて...必要としていた人は少数でも居たはずです。校長先生や教育委員会の方の誠意が全く伝わってきません。伝統ある鴨沂高校定時制がこんなゴタゴタした中で幕を閉じていくなんて、残念でたまりません。もう校長先生のおっしゃる事は信じられなくなります。残念です。悲しいです。

定時制在校生
保護者

全日制在校
生
保護者

裏切られつづけたこどもたち

新校舎で学べるという期待を胸いっぱいにして入学してきたこどもたち。その期待をことごとく裏切られ、学校に対しての不安と不信を抱きながら過ごしています。

そして、今また、こどもたちの唯一の心のよりどころとなる『学生食堂』までもが取り上げられようとしています。大事な進路に向けて歩みださなくてはいけないこの時期に、またしても学校からの裏切り!!学校は、校長は、どれだけ、こどもたちの夢や希望を壊しつつ、期待を裏切り続ければいいのですか?

高校3年間の大切な思い出を、これ以上裏切りや失望で染めていかないで下さい!!

新校舎に、卒業したこどもたちが笑顔で集える場『心温まる 学生食堂』を作ってください。

ただ、シンプルな疑問だけが頭の中を巡ります。

食堂が無くなって困るのは新校舎に通う現1・2年生、そして来年からの入学してくる生徒達だと思います。食育を考える上でも本当に大切なものは、作り手の見える食事を食べる事です。

元校舎に食堂の施設があったのですから、新校舎へもそのまま仮校舎から移動させるのだと思っていました。なぜ、その事が出来ないのか不思議でなりません。加えて最も長く鴨沂で過ごされた、現食堂の方々に食事を作って頂くことは最善の策ではないのでしょうか？

鴨沂で食堂を営まれた長い日々の中、共に生徒と過した時々食堂に必要な理由が詰まっていると思うのです。

あの時、疑問に思ったのに声を上げるのをためらった。そんな、後悔はしたく無いから食堂存続を心から希望します。ただ、ただ、すごくシンプルな願いを持っているだけです。

全日制在校生
保護者

全日制在校生
保護者

3年前の高校受験の時鴨沂高校と決めた理由が3つありました。

1歴史のある学校である 2. 新しい校舎に入れる 3. 食堂がある
そして入学し息子は楽しく毎日を過していると思っていました。

この食堂の件がわかるまでは、最初今回の話を聞いた息子は「鴨沂むかつく」と言いました。

私はこの言葉を聞いて驚きました、楽しく学校生活を送っていると思っていた子から出る言葉とは思いませんでした。

そしてこの件を知れば知るほど、聞けば聞くほどおかしいと思うことが次から次へと出てきました。

詳しく聞いていくうちに必ず突き当たるのが紫野グラウンドのことでした。グラウンドと食堂、何の関係もないこの二つが実は4年前からこうなる方向で進んでいたと知り愕然としました。

4年前のワークショップでの内容はすり替えられ、未だにグラウンド代替案も見過ごされたまま、大人の事情、個人の保身しか考えていない大人に置き去りにされている子供たち。

いろんなことに騙され続けてた3年間。

こんな事実の中で過ごした息子だからこそ「鴨沂むかつく」と言葉を発した気持ちが納得できました。

良い高校だと勧め通わせた親の償いとして学校生活の楽しく助けられた食堂が残るようにと思い訴え出しました。

仮校舎へ移した食堂を新校舎へそのまま戻す、ただそれだけを願っているだけなのに。

卒業後、新校舎ができてもし食堂があれば先輩や後輩と共通の居場所がある、今まで通りの食堂が新校舎へそのまま戻すことを、切に願うだけです。

私は今回の食堂の問題について最初から取り組んでいました。最初にこの食堂に厨房が無いと知ったのが試食会の事です。このときに、コンビニになるという情報を聞いて学校側に尋ねると「実は、厨房がないんです。今の食堂を残せばいいんですけどね。」とお聞きしましたので、これはどうなっているんだ??と。そこから、私が躊躇している間に1年のクラス委員の方々に聞き取りしいかに食堂を欲しているのか、重要性を皆訴えていました。

全日制在校生
保護者

そして、その後のPTA総会でその問題を真っ先に取り上げて頂いたのが藤井校長先生。その場で「食堂は、無くなりません。前川さんには、長くやっていただいているのでこれからもお願いしたいと思っている。コンビニにという都市伝説、怪情報にこちらも驚いている。そんな話は、全くない。」

半ば怒りに震えるような形で明言されそれを見た私は、おお頼もしいと思いました。その後に懇親会が開かれたその場でも、「安心してください。」と述べられこの問題は終結したものと思いました。

その後8月頃、具体的にデイリーヤマザキというコンビニ名まで出てきて前川さんにコンビニの店長というかたちで打診されたと聞きました。さらに、生徒にも全校生徒の前で食堂は残すと明言し、学校説明会でもNHKの食堂の映像を流していたと聞きました。一番憤りを感じているのが、ここです。

表では、食堂だと明言し、裏では調理はできないコンビニと言うかたちで契約を打診していると。教員という職業は、数少ない夢や希望や理想を語っていい職業だと思います。そんな教員が、ダブルスタンダード学校の中でまるで聞取引みたいなのを生徒に示してほしくない。そういう憤りを強く感じ何とかしなければと思いました。まず、話をするにしても相手を知らなければならない。

やはり、過去を調べていくとどうしてもぶち当たるのがグランド問題。色んな理由があるのかもしれませんが、グランドが無くなったのは。ですが、実際に当時の保護者の方と接触し、お話を聞かせていただいたらやはり、グランドは無くならないと初めは話してきたが段階的にそこには無くなるけれど、代わりを用意すると。最終的に今のような縮小になったけれど開き直りのような回答に至ったと。前回のオール委員会で、今後の食堂がどうなるか、自分に直接聞いてくる人はいないと校長は話したけれど、そういう受け答えしていた人に聞いても意味があるんでしょうか？なので、私は色んな人にお力を貸していただく方法を取りつつ、PTA本部にも再三お願いをしました。

本部の方（会長と副会長さんをここでは示します。）は、この問題に対し、中立の立場とお話しされたけれど、実際に食堂に赴き話を聞かれる事は一度もなかったと聞いています。学校長、会長など本部もそういった対応なのであれば、こういった方法(署名等)を取らざるを負えなかったのです。

残念ながら、自ら話したことも話してないと。それなのに録音はするなというのはおかしいのではないかと。だから、私は生徒の署名の学校長への受け渡しの時に立ち会い、さらに撮影をやりました。あの場面で、私自身に法的手段に訴えるとも話されましたよね？ただの撮影、さらにあなたは公人でありあなたを批判するような形ではなく、ただの署名の受け渡しなのに。それでも、仕事の様子を撮影されて生徒達の前で、あのような発言をされていけば、生徒はどのように考えるのでしょうか？

私は、間近で見えていましたが怯えきっていました。あれが、教育をするトップの方とは思えない発言だと思います。正しいことをされているのであれば堂々されればいい。何もやましい事がなければ、ぶっちゃけ署名何通来ようが問題はないはずではないでしょうか？

ただの保護者が、こんなことまでしなきゃいけなくなったのは信頼関係が破綻しているとは思われないのでしょうか？

小学1年生や小さい子供たちと会話するときは、膝を折って目線を合わせて話するというの聞いた事ありませんか？相手の目線に立って話することができれば、このようなことにはならなかったと思います。府庁に行っても、学校の設備は学校長に決定権があると話されていたけれど何にもない。

空間で予算を決めること自体もありえない。食堂にガスが置けないと最初聞いていたのが、消防法で、と聞いていたけれど、またここも話が変わって学校長の藤井校長が決めた。決めはるのは権限があるからいいのでしょうか、余りに話が二転三転しすぎじゃないんでしょうか。

安心安全とか抽象的な言葉は、もういらないです。

どういった形のものにしたいか、それを明確に答えていただき、今それに向かってどういった時間軸でやるのかを見せないから、保護者や生徒は不安なのです。署名した人を批判するのではなく、ご自身の説明が足らなかった部分を謙虚に受け止めてください。

生徒達がやる気を出すために必要なものは

朝は、希望を持って目覚め

昼は、懸命に学び

夜は、感謝を持って眠る

それが大事だと思います。

今の状態で、希望を持って目覚められますか？今の状態で、感謝を持って眠れますか？そんな状態で懸命に学べるんでしょうか？

主役は、教員でも保護者でもなく生徒なんです。何を持ってすれば、彼らをバックアップできるかそれを最優先でお願いします。いや、それを要請します。